



平成24年12月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会

〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



●濱田進 *写真は今年の審査会にて

1948(s23)年 兵庫県生まれ
 1974(s49)年 第59回二科展「初入選」
 1976(s51)年 「関西二科展」にて二科賞受賞
 1978(s53)年 「第63回二科展」にてローマ賞受賞
 「関西二科展」特選
 1979(s54)年 二科会会友推挙
 1982(s57)年 「セントラル油絵大賞展」入選
 1984(s59)年 「第69回二科展」にて会友賞受賞
 1985(s60)年 大阪高島屋にて個展
 1987(s62)年 二科会会員推挙
 1990(h 2)年 安井賞出品
 1991(h 3)年 「第76回二科展」にて会員努力賞受賞
 2001(h13)年 「第1回鷹山賞児童作品展」審査員長(～現在)
 2010(h22)年 社団法人二科会評議員となる
 (現在・公益社団法人二科会評議員)



濱田進 『花降る広場』(キャンバス・油彩、2008年頃)

今年も鷹山賞児童作品展の季節がやってきた。第12回展であるから、第1回展から審査員長をつとめてくださったという濱田進先生のお付き合ひも、12年ということになる。それでもお目にかかれるのは毎年一回のみ。まるで七夕伝説の彦星と織姫のよう。とは言っても伝説ほどロマンティックではございません。その現実、10月初めに行われる審査会。限られた時間内での作品選考という、スピーディーなリズムにのって応募作品を選別し賞を決める。プロのその確かな審美眼を目の当たりにする日。伝説と似ているのは、年に一度の再会まではお互いに仕事に精進してこの日を楽しみに待つ、ということだろうか。審査会の夜は先生を囲んで反省会。スタッフと近況報告やら、今後の美術館の行く末やら、鷹山宇一先生の精神・芸術性、今子どもたちに大切なことは？そして美術館が何をすべきか？などなど、楽しい話をおつまみに美酒をいただいている。

平成22年に鷹山賞展が10周年を迎えるにあたって、「審査員長・濱田進展」を開催した。先生の手元にある作品を中心に前期・後期と計34点の作品をご紹介させていただいた。その折、先生の京都のご自宅へ一泊させていただき、奥様の料理に舌鼓を打ちながら先生お気に入りのワインを片手に、団らんのひとつを過ごさせていただいた。甘い下手の私にとっては、ご迷惑をお掛けするのではないかと有り難いご厚意に躊躇もあつたけれども、睡まじいお二人のあたたかなお心に包まれて、京都にお父さん、お母さんを見つけた心地がした。「第二の故郷」とはそんな居心地のよい時間を過ごさせる心の居場所を言うのだろうか。とっておきの思い出である。

やはりお人柄なのだ。それは作品によく表れる。

私は今、この『花降る広場』に心を救われている。先の「濱田進展」でも、先生が旅されたイタリア、南仏の広場や街並みを題材にした作品を沢山拝見したが、そこには必ず「人」がいて、小っちゃく描かれているにもかかわらず、立ち話や歓声、背景にある人生をも想像させる優しい描写で、私は大好きである。春の陽気、ちよつと強めの風もぬくぬくと、心がポカポカしてくるのを感じる。天からは祝福の花びらが…それは天使のように舞い降りる。「春が来たんだね」「春はちゃんと来るんだね」…遙かに続くのどかな春色風景が優しく答えてくれる。「そうだよ」

癒やされたい方もそうでない方も、是非一度鑑賞ください。新年1月27日迄展示中です。(学芸員・大池亜希子)

「平山郁夫美術館・大原美術館・大塚国際美術館」を堪能!!



広島空港2階ロビーの陶板壁画(縦2.8m × 横12m)

深まる芸術の秋、「せとうち美術紀行」として二泊三日の国内美術紀行を実施しました。三人の参加者から紀行文をお寄せ頂きましたのでご紹介致します。

平山郁夫画伯誕生の地を訪ねて

八戸市 中村富美子

友の会の美術館巡りの中に、作家生誕地を訪れることも研修の一つであるという。

今回「せとうち美術紀行」では平山郁夫画伯の誕生の地、美しい瀬戸内の青

い海、青い空、緑の島々の織りなす自然の中で、少年期を過ごした生口島・瀬戸田町の平山郁夫美術館を訪ねました。空路、三沢・羽田から広島空港へ到着し、空港二階ロビー壁面いっぱいには平山郁夫の美の世界がありました。

朝陽を浴びた朱塗りの大鳥居・自然の海と朱塗り回廊を巡らせた宮島厳島神社を海面に浮かび上がらせています。これからの旅の楽しみがふつふつと湧いてきました。

常々「自分の感性は、明るく温暖な瀬戸内の風土によつてはぐくまれました」と画伯は語っていますが、それがどのように作品にあらわれているのか、美術館々長さんの穏やかな語り口と懇切丁寧な解説を聴くことができ、とても勉強になり、嬉しかったです。

平山郁夫の生い立ちや貴重な少年時代の絵日記(小学四年生当時のもの)、さらにスケッチや下絵等の生の資料などが紹介されていました。画伯が愛した瀬戸内の島々をイメージして、中央にひょうたん島を配し作庭された庭園も館内ロビー前からガラス越しに見る事が出来ました。降雨のため外には出られず残念でした。

ロビーの壁面には陶板画による「仏教伝来」が展示されていましたので、手で触れて祈りを感じさせていただきました。

何度もいわれてますが、画伯の自然

的美のルーツは生まれ育った故郷の瀬戸内海にあり、人文的ルーツは、画伯の心の故郷である敦煌の莫高窟(仏教石窟群)にあるといえます。

全国各地に数ある平山郁夫美術館の中でも、ここ生誕の地の美術館を訪れて平山芸術の原風景に触れることができ、感謝いっぱいの楽しい旅でした。

大原美術館を訪ねて

七戸町 船山 義郎

江戸時代に港町として栄え、この地に物資を運んできた倉敷川の両岸には、倉敷格子や倉敷窓など倉敷独特の意匠を施した家々があり、歴史の香りを漂わせる町並みには圧倒されました。

その片方の川岸沿いには、昭和五年、日本で最初の近代西洋美術館として設立された大原美術館があり、ギリシャ神殿を思わせる本館の入口には、二体のロダン像が迎えてくれました。

入館して最初に目に飛びこんできたのは、大原孫三郎が児島虎次郎の才能を見抜き、東京美術学校卒業後もヨーロッパでの留学を終えるまで物心両面にわたり支えてきました。残念なことに四十七歳の若さで逝去した彼を悼み、友情の証として彼が収集した作品や画家として自ら描いた作品を公開するため、私立美術館を創設したということ、さらに所蔵作品の拡充と展示場の増設に尽力した嫡子總一郎が「美術館は生きて成長してゆくもの」という問いかけとも受け取れる内容の説明書きでした。心の拠り所として大切にすべき金言だ

と思つています。

本館には、モネ、ルノワールなどフランス印象派の作品が数多く展示されている中で、今でも脳裡を去来する作品がエル・グレコの「受胎告知」です。機会があれば、観覧をお勧めいたします。

大原美術館は、本館のほか、藤島武二や萬鉄五郎の作品などを公開している分館、棟方志功の作品や中国古美術品を展示している工芸・東洋館があり、近接する倉敷アイビースクエア敷地内の児島虎次郎記念館から成っています。まさに感動の連続でした。

旅行を終えて言えるのは、「訪ねてよかった」という一語に尽きるということです。

(鷹山宇一記念美術館 館長)



大原美術館で記念写真 右端、友の会の旗にご注目!

鷹山宇一画伯生誕記念

遊蝶記から

*本年は、12月10日が月曜休館日に当たるため、9日(日)に行われました。

「父をいつまでも忘れないで戴きたい。美術館の歴史の中に書き残しておきたい。」そのような思いのもと、多くの方々の賛同を得て、「遊蝶記」は一周忌の節目の年に当館事業として始まりました。歴史や過去が疎まれ、抹殺されつつある今日であるからこそ、その「真」を今一度確認し、未来へと継承して戴けたならとの願いを込め、ご多忙のところご無理を言ってお寄稿をいただきました。



*13回目となる本年の「遊蝶記」から



一瞬、嫌な予感がした。案の定、電話の向こうから震えた妹の声が流れる。最後は涙声で帰宅を促し、応えるかのように私は深夜バスに乗った。腕の中で眠っている幼な児の髪の毛を撫でながら、高速道路から見える街の灯りをただ見つめていた。

二人の男孫をベットの左右に座らせ片時も離さず、五日間父は家族に別れの時間を与えてくれた。通夜も葬儀も、私たち家族の心は平安だった。歳の順に別れていく、そんな当り前の幸せを得たこともあるが、私たちは父を尊敬し誇りとし、父の妻であり娘であり婿であり孫であることが何よりも大きな幸せであったから。

病院から父が帰った夜、私たちが大好きな吉野毅先生が父のデスマスクをつくってくれた。そして孫たちは皆その手伝いをさせてもらった。「死者と対面をする」、その厳粛な儀式の

瞬間も深い悲しみを上まわる彼らの思いは強く明るかった。

元気でいた時と同じ、いやそれ以上に孫たちは愛してくれた祖父を忘れまいと、誰もが何のためらいもなく父の顔を触り作業を進めていた。言葉で言い尽くせぬほど、それぞれの思いはあったが、私たちは満足だった。

12月10日、父の91歳の誕生日に美術館で「お別れの会」が開かれ、たくさんの方々が参列して下さいました。孫娘がピアノを弾き、献歌をして「別れの会」ができたことは鷹山家として大きな喜びであり、今でも七戸町の方々に深く感謝をしています。父の誕生日であり最後の別れの日でもある12月10日は私にとって特別な日となった。

当時常務理事であった濱中達男先生に、記念日としてその日を形として残したいとご相談をした。父が生涯のテーマであった「遊蝶花」、そして戒名にも入っている「遊蝶」の文字を入れ、辛気臭いことが嫌いだっただけの心情を考え「忌」ではなく、忘れずに語り継ぐ意味をもつ「記」



*「第1回遊蝶記」から。60人もの多くの方々がお集まりくださいました。当日は青春真っ直中の若者たちによるロック演奏も…鷹山宇一先生も大切にされていた、若者たちの魂の爆発、自由と個性がそこにありました。

をあて「遊蝶記」とした。毎年、この「遊蝶記」には、空から真っ白い蝶が何億羽と舞い降りてくる。

下山恭美子先生のリードで誕生日の歌が流れる美術館の2階。その窓からは白銀一色の世界が見える。無垢の雪道に一歩一歩己の足跡を残し、七戸町に貢献したい。数え切れない無数の白蝶を見るたび私は心を新たにします。鷹山宇一の精神「遊蝶記」を支えて下さっている友の会の皆様方、本当に有難うございます。

鷹山 ひばり
(鷹山宇一画伯長女、青森県立美術館長)



*1999年10月25日に逝去された鷹山宇一先生の戒名は「伯光院遊山宇一蝶禅居士」です。

平成17年第3回理事會において開催が提案された「遊蝶記」は、理事會・評議員會で大賛成となり、同年より当館事業として毎年継続されて今日に至ります。この美術館を物心両面からサポートして下さる友の会の皆様はじめ、緑のある皆様から本集まり戴いた誕生會…鷹山宇一先生のお墓前には、いづれにせよ「遊蝶記」開催に当たっては、友の会会員の皆様のご厚意で、その運営に力を注ぎたいと思っております。この機会を是非ご参加いただき、協力をお願いいたします。宜しくお願い申し上げます。

第12回 鷹山賞児童作品展

本年第12回展を迎えた鷹山賞児童作品展では、青森県南部地方の42の小中養護学校から、617点の作品が寄せられました。去る10月3日、4日の2日間にわたり行われた審査会において、入賞27点・入選95点が出され、11月17日には入賞者授賞式を開催、その栄えある受賞者の皆さんを讃えました。

例年初雪の季節に開催されるこの授賞式ですが、にもかかわらず、八戸市、むつ市、東通村等々遠方からも多くの方々がご臨席くださいます。引率してくださる保護者の皆様、先生方、児童生徒の皆さん、おめでとうございます！そしてありがとうございます！その晴れやかな笑顔に、事業に携わってきたスタッフはいつも元気をいただいています。未永く笑顔いっぱい鷹山賞児童作品展でありますように、これからも回を重ねて行って欲しいものです。素晴らしい子どもたちの心と作品に感謝！展覧会は1/27迄開催中です。

Information

◇入館時間◇
10:00-17:30
(閉館18:00)

◇休館日◇
毎週月曜日

月曜祝日の場合は開館し翌日
年末年始(12/30~1/2)

◇入館料◇
一般500円・学生300円
小中学生100円

友の会会員の皆様特典あり

【「鷹山賞」受賞作品と受賞者】



▲ 鷹山賞受賞者
右) 小学生の部・木村峻くん
野辺地町立野辺地小学校4学年
左) 中学生の部・古屋敷駿くん
七戸町立七戸中学校3学年

◀ 鷹山賞受賞作品
上) 小学生の部
「船乗りシンドバットを読んで」
(水彩、サインペン)
下) 中学生の部
「迷いの中の自分」(水彩)



▲右) 主催者を代表して挨拶をする福士孝衛当財団理事長。
左) ご祝辞をいただきました七戸町長・小又勉様。

◀ 鷹山家を代表して、鷹山宇一画伯長女・鷹山ひばり様(青森県立美術館長)よりご祝辞を頂戴しました。



▲受賞を祝して七戸産林檎ジュースで乾杯！七戸町議会議長・白石洋様にご挨拶をいただきました。

◀ 審査員長・濱田進先生の総評を代読する七戸町教育委員会・倉本貢教育長。

鷹山賞受賞者へ贈られた副賞 ▶ 鷹山宇一先生のお孫さんで彫金作家の片山雄介氏が制作。まるでチェスのナイトの駒のよう。古来良馬の産地として知られる七戸町にちなみデザインされた純銀製の副賞です。このほか町長賞、教育長賞、美術館長賞、奨励賞、特別賞の議会議長賞、審査員特別賞も制作していただいています。鷹山賞展ならではの素晴らしい副賞です。



第12回地球環境世界児童画コンテスト開催中!! その色が鮮やかで、感性を是非ご体感ください!

*写真は今年の審査会その様子です。中央が濱田進先生と嬉しいです。皆々様に感謝。

きました。ひとつの作品を途中で投げ出さないこと、最後まで丁寧に作業すること……このことが、この時期の子どもたちに一番大切なことだと確信しています。指導に携わる先生方のご苦労は大変なことだと思いましたが、今回の作品を見て、鷹山先生の「心」が実を結んだのだと思いました。子どもたちに養われた「力」が今後学校生活で活かされ、子どもたちの夢の実現に役立てていただくと嬉しいです。皆々様に感謝。



回を重ねると12回。今回の作品には充実度の増した作品、画面の隅々にまで気を配り、丁寧に作業をした「絵」が多数出品されてきました。審査員の先生方から、審査基準は何ですか？とよく聞かれます。私は「下手でもいい、隅々にまで色が塗られていくこと」と言っています。

総評

鷹山賞児童作品展審査員長・濱田進

新収蔵資料 & 作品のご紹介

このほど、当館収集作家として顕彰される日本画家・鳥谷幡山愛用の日本画制作道具一式と、洋画家・平野四郎水彩色紙の寄贈の申し出がありました。ここに感謝の意を表すると共に、紙面をかりてご紹介させていただきます。

鳥谷幡山は1876(明治9)年七戸町瑞龍寺に生まれた日本画家です。十和田湖を愛し描き続けた画家として知られます。このたび、鳥谷幡山のお孫さんで、友の会会員でもある野谷善達様を通じて、愛用の筆・落款印等画材一式が当館に寄贈されました。野谷様とのご縁は開館当初に遡ります。当館収蔵の幡山作品の主軸である20点のコレクションを七戸町に寄贈された方であり、生前の幡山を知る数少ないお一人です。会報紙上にも「祖父鳥谷幡山の思い出」としてご寄稿いただきました(詳しくは、平成16年の10周年記念号に)。愛用の道具から私たちの想像は大きく膨らみます。幡山の素顔をも垣間見る思いが致します。画家の道具とは、そういったぬくもりを作品に附加する貴重な資料なのです。幡山の新たな一面を発見できるかもしれませんね。来年2月からの常設展で、是非ご紹介できたらと思います。また、平野四郎は鷹山宇一より4才年上、1904(明治37)年に七戸町に生まれた洋画家です。教職の傍ら画業に

精進しました。町内「柏葉館」のロビーにも作品が1点、ご存知の方もいらっしゃることでしよう。当館収蔵の平野作品は少なく、七戸小学校所有作品を拝借して細々と展示をして参りました。収集作家のお一人であるにもかかわらず、存分にご紹介することができないまま今日に至っています。そういった事情を知る町内の個人の方から、このたび貴重な水彩色紙が寄贈されました。有効に活用をさせていただきます。貴重な資料・作品の寄贈に、あらためて深謝申し上げます。このような様々なご恩・ご縁のあったことを忘れることなく、未来へ繋いでいっていただきたいと思えます。過去は単なる歴史、遺物ではなく、切磋琢磨の日々の積み重ねです。過去があるからこそ現在の去を便利な世の中になりましたが、過去を使い捨てることなく、多々ある反省を今に活かし、研鑽を積んでいけるような美術館であってほしいと願います。



たり部本筆
水彩の千三印
水部千三印
四谷箱
野鳥類箱
平色画道
寄品と
贈資
されり
今作

ワークショップ通信 「芸術文化観光推進事業」 鷹山宇一美術部

「ロザファイ」年賀状木版画教室の様子をご紹介します。



10月21日、講師に二階堂由紀子氏(宮城県在住)をお迎えして青森県では初めて、紙でつくるバラの「ロザファイ」講座を開講しました。

「ロザファイ」とは、特殊な棒のような道具を用いて、バラをたくさんつくり、これを貼り合わせることでアクリルに仕上がるというものです。皆さん最初は、バラをつくるのにかなり手こずっていましたが、数をこなすとにきれいなバラが完成！目を輝かせていました。

当館初の事業でしたので開講に多少の不安はありましたが、「またやりたい！」という言葉が聞けてこちらもほっと一安心。とても楽しい教室になりました。



折ってはクル折ってはクル...細い紙を折って...繰り返すとなんと”バラ”に



*二階堂先生のブログに、当日の様子が紹介されています。是非ご覧ください。教室名/七虹(ななこ)

11月25日・12月2日に、奥入瀬小学校元校長・藤谷芳雄氏(平成24年度十和田市文化賞受賞)をお迎えして「年賀状木版画講座」を開講致しました。



初入选は木版画でした。鷹山芸術を知る上でも、青森が誇るアート木版画に一層親しんでいただこうと、身近な年賀状をテーマに継続してきました。今年は3年生以上が木版、3年生以下がスチレンボードを使うという講義でした。年賀状と言えは干支ですが来年は「巳」。しかし、これがまた単純な形ではあるが意外と絵になりにくいため難しいと、先生。そんな「巳」に挑戦したものはもちろん、だるまだったり、しめ縄だったり...皆さんとても素晴らしい味のある年賀状に仕上がりました。参加者は少なめでしたが、より密なコミュニケーションが図れて楽しく制作できたのではないのでしょうか? 先生、今年度もご指導本当にありがとうございました。

● 美術館日誌 ●

【10月】

- ▼2日/芸術文化観光推進事業・鷹山宇一美術部写真教室②フォトコラージュ&デコフレーム開催
- ▼4日/RABAラジオ「秋山庄太郎写真展」取材
- ▼5日/船山館長東京出張(二科展、日動画廊ほか、5・6日迄)
- ▼7日/「第3回まちかど美術館開催(町内協力商店14店&美術館に於いて。5・9日迄)。船山館長岩手県花巻市へ出張(萬鐵五郎記念美術館)
- ▼9日/「第72回国際写真サロン」展最終日、作品搬出作業に「フォトしちのへ」よりご協力をいただく
- ▼10日/「まちかど美術館」町内協力店作品撤去作業。盛田稔先生祝賀会打合せ(2階工房)
- ▼11日/芸術文化観光推進事業おもてなしWS「シルバークラークセサリー作り」に一般2名様受付、実施。友の会研修旅行説明会
- ▼12日/スペイン民芸資料館展示替え作業のため休館
- ▼13日/榎林保育園年長園児16名、引率保育士3名様ご来館
- ▼15日/第12回鷹山賞児童作品展応募締切日、42団体より617点の応募。船山館長、佐藤事務員、盛田稔先生「生涯現役・波乱万丈の95年」出版記念祝賀会へ出席
- ▼16日/芸術文化観光推進事業おもてなしWS「シルバークラークセサリー作り」

【10月】

- に一般2名様受付、実施。
- ▼17日/「秋山庄太郎写真展」最終日
- ▼18日/秋山庄太郎写真芸術館より斎藤学芸員来館、作品搬出作業。展示替えのため21日迄休館
- ▼21日/びゅうトラベル18名様ご来館
- ▼22日/七彩会油絵教室開催
- ▼23日/大池学芸員資料返却のため十和田市出張
- ▼25日/盛岡まちづくりわいわい塾20名様ご来館
- ▼27日/金田一コミュニティセンター25名様ご来館
- ▼28日/船山館長青森市出張(県立郷土館)
- ▼29日/友の会会報68号発送作業
- ▼2日/川上テイケアセンター15名様ご来館
- ▼3日/鷹山賞児童作品展審査会を開催、審査員長・濱田進先生ご来館(4日迄)。川上テイケアセンター15名様ご来館。農協観光55名様ご来館
- ▼5日/船山館長青森市出張(青森県教育委員会学務学事課、青森県美術別展「奈良美智展」オープニングレセプション)
- ▼6日/芸術文化観光推進事業おもてなしWS「当地ストラップ作り」に一般2名様受付、実施。「シルバークラークセサリー作り」に一般2名様受付、実施。
- ▼7日/芸術文化観光推進事業おもてなしWS「南部菱刺し作り」に一般1名様受付、実施。七彩会油絵教室開催

【11月】

- ▼10日/法源寺25名様ご来館
- ▼11日/南公民館講座「アートのたしなみ③」2階工房において実施、大池学芸員講師。中泊町民生児童委員協議会23名様ご来館
- ▼12日/当財団三役会開催。近田会計事務所山本氏来館
- ▼13日/美術館「絵画室3」雨漏り修繕工事(4日迄)
- ▼16日/「平成南部藩一日国替え事業」で南部町長ご来館
- ▼17日/友の会研修旅行(5・19日迄)
- ▼18日/芸術文化観光推進事業おもてなしWS「木版画作り」に一般1名様、小学生1名様受付、実施。
- ▼19日/美術館冷暖房入替作業(三光電気)。美術館自動ドア定期点検(ナブコ)
- ▼20日/七彩会油絵教室開催
- ▼21日/芸術文化観光推進事業・鷹山宇一美術部「ロザヴィ」を開催
- ▼24日/船山館長青森市出張(県庁)
- ▼25日/当財団三役会開催。佐藤事務員防火管理者講習会を受講(26日迄)
- ▼26日/船山館長、織川教育普及員十和田市出張「アートサークル彩展」
- ▼27日/「東北文化の日」実施に伴い、高校生以下の無料入館を実施(28日迄)
- ▼2日/五所川原高校PTA研修旅行32名様ご来館
- ▼3日/当財団理事会を開催。エイトラインツアー17名様ご来館
- ▼8日/町立七戸中学校より職場体験学習のため生徒2名を受入、学芸員の仕事を体験(大池学芸員対応)。

大池学芸員八戸市出張(鷹山賞児童作品展デーリー東北新聞社賞副賞等受取)

▼9日/船山館長青森市出張。大池学芸員青森市出張(鷹山賞児童作品展ATV、ABA副賞等引取)

▼10日/七彩会油絵教室開催

▼11日/宮城県角田市より12名様ご来館、絵馬収蔵施設を視察研修。鳥谷幡山ご令孫・野谷善達氏ご来館、常設展「鳥谷幡山展」をご鑑賞。友の会研修旅行開催(青森県美「奈良美智展」棟方志功記念館)

▼13日/展示替え作業のため休館(5・17日迄)

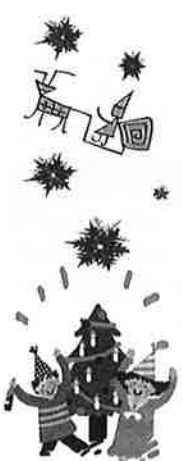
▼17日/第12回鷹山賞児童作品展入賞者授賞式を開催。当財団理事会を開催

▼20日/町立七戸小学校2学年児童38名・引率教員4名様、同校4学年児童40名様・引率教員4名様ご来館

▼21日/城北保育園年長園児21名様・引率保育士3名様勤労感謝の日職場見学事業でご来館

▼25日/芸術文化観光推進事業・鷹山宇一美術部「年賀状木版画①」を開催

▼28日/当財団三役会開催。友の会盛田会長、戸館事務局長ご来館(平成24年度分助成金納入)。町立城南小学校3学年児童30名・引率教員2名様、同校2学年児童22名様・引率教員3名様、同校5学年児童38名・引率教員2名様ご来館。美術館A重油2キロ納入



二頁に引き続いて「せとうち美術紀行」の紀行文を「ご紹介」します。

大塚国際美術館訪問記

十和田市 小向 慎

大塚国際美術館！

驚きと感動！何とも欲張った不思議な美術館です。

今までに数えるほどしか行ったことのない外国の美術館で、あこがれと共に見た絵。教科書に載っていて覚えているべき有名画家と名画ととされてきたいわゆるスタンダードなもの。〇〇美術館展と銘打って来日公開された巨匠と名画の数々…。

その名画とされるものがドーンとあり、隣もその隣も後ろも「これ見たことある」「あつ、あの画家の絵だ」と、どちらを見ても美術全集そのままです



が、これが陶器に焼き付けられた複製なものです。実物原寸大、色彩も額縁もそのまま原画と共に再現されているとか。神戸から明石海峡大

橋で淡路島を通り、鳴門の渦潮を眼下に大鳴門橋を降りた四国の徳島で、高速道からは気がつかないほど外見の目立たない建物の美術館です。

ところが日本一敷地の広い西洋美術史美術館だそう、地下二階から始まる展示室が古代から中世、ルネサンス、バロック、近代、現代と系統付けられて展示されており、範囲は世界二十五か国、一千点に及ぶ美術品が陶板に焼き付けられています。



平田部長さんより「最後の晚餐」の前で解説を聴く

陶板なので「どうぞ触って見て下さい」と言われても、「触るべからず！」が身についていて、恐る恐るしか手が出ません。

ボッティチエツリの「ヴィーナスの誕生」、同じく「春」、ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」、レンブラントの「夜警」、ベラスケスの「ラス

・メーナス(女官たち)」、ムリーリヨ「無原罪の御宿り」、フェルメール「真珠の耳飾りの少女」、ジョット、グレコ、セザンヌ、モネ、etc...

圧巻はシステイーナ礼拝堂で、天井画、壁画が礼拝堂そのままの高さ大きさで、陶板製なるがゆえに講演、芝居、結婚式などにも貸し出されるそうです。



完全再現！システイーナ礼拝堂天井画

新しい絵等を見て感性を刺激するというより、前に見たことのあるものを確認するために見て回った、というのが今回の大塚美術館でした。

数が多すぎて時間が足りず、駆け足で回ったところもあります、時間をたっぷり取って見たとしても、何かが違うかと思ってしまうそうです。

一か所でも何もかも全部見るのは、どこか後ろめたいという気分が付きまとうのか、一点ずつ心に焼き付けて見た感動が薄いのです。盛り沢山過ぎて自身の受け入れ態勢が間に合わないのかもしれない。

思い出の名画に再見したいとき、美術史を勉強したいときにはぜひ訪れてほしい美術館です。

各美術館のご利用案内
詳しくは、各館のホームページを
ご覧下さい。

大塚国際美術館

- 所在地
徳島県鳴門市鳴門町
鳴門公園内
- お問合わせ先
TEL 088-687-3737
FAX 088-687-1117
- 開館時間
9:30~17:00
(入館券の販売は16時迄)
- 休館日
月曜日

大原美術館

- 所在地
岡山県倉敷市中央
1-1-15
- お問合わせ先
TEL 086-422-0005
FAX 086-427-3677
- 開館時間
9:00~17:00
(入館 16:30まで)
- 定休日
毎週月曜日

平山郁夫美術館

- 所在地
広島県尾道市瀬戸田町
沢200-2
- お問合わせ先
TEL 0845-27-3800
FAX 0845-27-3801
- 開館時間
9:00~17:00
(入館 16:30まで)
- 休館日
原則無休

第3回研修旅行「青森県立美術館・奈良美智展&棟方志功記念館・棟方の祈り展」の紀行文をお寄せ頂きましたのでご紹介致します。

「奈良美智展」に寄せて

七戸町 井上 早苗

県立美術館で『奈良美智展』があると知って、すぐに友の会へ『研修旅行で行きますか?』と尋ねました。個人で行くこともできますが、皆で行くのを毎年楽しみにしているの、まず、友の会へ。

お陰様で総勢二十三名。出発する時はぐずついた曇り空でしたが、皆の



鷹山ひばり館長を囲んで記念写真

普段の行いが良いので到着した頃には青空が見えていました。鷹山ひばり館長はじめ、職員の方々に迎えられ、約二時間。ゆっくりと鑑賞してきました。

奈良さんと言えば女の子の絵ですが、日曜日でしたので家族連れが多く『君や僕にちよつと似ている』子供達も沢山来ていました。

今回、初の彫刻像十三点は、柵などがされていないので、息がかかる程近くで見ることが出来、無意識に手が触れてしまう人がいるのもわかります。本当に引き込まれて、彫刻像に刻まれた奈良さんの指の流れに沿って触れてしまいたくなります。大胆だけど、抱きつきたい程かわいらしい。そんな作品が沢山あります。

まだ開催しているので是非あなたに似ている女の子に会いに行つて下さい。心が満足したらその後はもちろん会食へ。今回は青森ワシントンホテルでブリしゃぶを頂きました。家では食べられないご馳走を食べられるのも、研修旅行の楽しみの一つであります。

昼食後は、本年鎌倉市・棟方板画館を吸収合併してさらに収蔵作品が充実した「棟方志功記念館」を訪れ、「棟方の祈り」と題した特別展を堪能してきました。板画『釈迦十代弟子』や『追開心経頌』のほか、作品にこめられた棟方の祈りの心に触れてきました。

今後皆様と欲談する機会が多くなりますように、参加をお待ちしております。また来年、良き年でありませう様に。

平成25年度友の会会員登録の更新と新規会員登録会お誘いお願い

平成24年も会員の皆様には、友の会運営に多大なお力添えをいただき、誠に有り難う御座います。新年も鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様に喜んでいただけるよう研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら、地域文化の発展に寄与していく所存でございます。

なお、更新手続きは美術館窓口と同封の郵便振替により随時行っておりますので宜しくお願い致します。

○友の会の事業内容

- ① 県内外美術館研修視察旅行(年2〜3回)
- ② 海外美術館研修旅行
- ③ 美術館作品購入基金への協力
- ④ 鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤ 会報の発行
- ⑥ その他(美術講演会の開催等)

○一般会員

年会費 3千円
特典 ① 無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引
② ミュージアムグッズ1割引

○特別会員

年会費 1万円
特典 ① 会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館
② 新規加入の方に画集1冊贈呈
③ 研修会、講演会への招待、優待
④ 他美術館等の視察研修への優待参加
⑤ 会報の配布

○賛助会員

年会費 2万円
特典 ① 会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館
② 新規加入の方に画集1冊贈呈
③ 特別企画展の都度、招待券を贈呈

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

★お知らせ

○会費の納入は随時受け付けておりますが、10月1日以降に新規会員登録の方は、翌年の3月31日までの会費となります。

○皆様の会報です。友の会へのご意見、お便り、旅行記をお寄せ下さるよう御願致します。

編集後記

会報第69号をお届けします。本年は、海外及び国内研修旅行のステキな紀行文を会員様から寄せ頂き充実した会報をお届けすることが出来ましたことを感謝申し上げます。有り難うございました。

平成25年、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

(T・I)